
Memories

零/Rey

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Memories

【Nコード】

N2000BA

【作者名】

零/Rey

【あらすじ】

NEVERとして生き返ると過去が消えていく…克己と賢の過去の消え方は全く違う消え方をしていることに気がついた京水は賢の過去を探ろうとして…

仮面ライダーエターナルで垣間見ることが出来た賢の過去をねつ造して書いてます。このSSは別漢字のHNで運営しているサイトにも掲載予定です。

Blues harp

京水がアジトの廊下を歩いている時、ブルースハープの音色が何処からかすかに聞こえてきた。誰が吹いているんだろう、と思った彼は、音のする方に向かって歩いて行った。

月明かりの下、窓のふちに腰かけているシルエットからその音色が聞こえているため、京水は早足でその場所に移動した。近づくにつれて、そのシルエットの人物がだれか、というのがわかった彼は、相手のイメージから少し意外な印象を受け、そのまま立ち止まると、相手が曲を吹き終わるのを待っていた。相手は、そんな京水の行動に気がついていないのかいなのか、そのままの姿勢で曲を吹き終えた。相手の口からすつとブルースハープが離されたのを見た京水は、いつものハイテンションとは違い、少し落ち着いた口調で話しかけた。

「克己ちゃんにこんな特技があつたなんてアタシビックリよ……」

「…俺に似合わないか？」

克己は京水の方を見てそう言ったが、逆光の為、彼の表情は京水にはよく見えなかった。それでも、なんとなく、克己が自嘲しているような気がして、京水はあわててフォローの為に口を開いた。

「克己ちゃんにすごく似合っている、ううん、演奏している行為自体が自然と言つても過言じゃないわ！で、その曲すごく良かったから又聞きたいんだけど、曲名とか知ってる？」

「…さあな……」

「…え…？」

意地悪ではなく、本当に知らない雰囲気ですぐ答えた克己に、京水は疑問を抱いてじつと彼を見つめていた。耳コピーでちよつと弾き齧つたレベルではなく、完全に自分の持ち曲として弾いているのに知らない、というのはどういうことなのだろうか…そんな疑問を乗せた視線が向けられているのに気がついたのか、克己は窓の外に遠い

目を向けながら答えた。

「NEVERになると過去が消えていくからな…だが、体が覚えて
いることは自然にこなせる…だから、この曲の弾き方は体が覚えて
いるから弾けるが、曲名とか、この曲をやるうと思っただ経緯とい
うのがすっぱりと抜けているというのが今の状態さ…」

彼の言葉に京水は思わず生唾を飲み込んだ。一度死んだ体が生き
返って永遠の命をもらったと思っただが、支払わなければいけない代
償は思っただよりも大きいらしい…京水は思わず不安を声に載せてし
まった。

「過去が消えていくって…法則性とか、順番とかあるの…？」

克己は京水の方を見てふっと淡い笑みを浮かべると淡々とした口
調で答えた。

「それは誰にもわからない、が真実だな…俺をネクロオーバーにし
た張本人のプロフェッサー・マリアでさえも、だ。ただ、俺の感覚
では今の自分に必要ないものから忘れていつている感じだな…」

それを聞いた途端、京水は少しほっとしたような表情を浮かべて
彼に向かって明るいう声で言った。

「今の自分に必要ないものから忘れていくのなら、生前と大差ない
わね。だったらアタシは関係ないわ…昔から過去のことよりもリア
ルタイムのことが重要、として生きてきたんだもの。そして、今の
アタシの中では、克己ちゃんに惚れているからこそ、みんなの中で
一番克己ちゃんの役に立つにはどうしたらいいのか、ってことが大
切なんだもの」

「…そうか…」

克己はそういうと、再びブルースハープに口をつけて曲を奏で始
めた。先ほどと同じメロディの曲を吹く克己からは、一人にしてお
いてくれ、と言わんばかりの空気を感じた京水は、そっと音をたて
ないようにしてその場から離れた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2000ba/>

Memories

2012年1月5日00時51分発行